

長野市立長野高等学校のあり方について（提言平成26年 1 月15日付）

● 長野市立長野高等学校の教育内容と課題		
(1) 総合学科について		
ア 教育課程について		
【要約】 生徒が主体的に学びを選択し個性を生かせる総合学科の特性を活かし、進学希望増に対応した改編を継続しています。今後は生徒の実情に即した柔軟な教育課程の見直しを行い、一人ひとりの進路希望を実現することが課題です。		【現状】 ・ 進学ニーズへの偏りと基礎学力の課題 多彩な選択科目が用意されているものの、進学希望者の増加に伴い、実際の履修状況は普通科とほぼ同様の傾向。その一方で、自身の興味やニーズを優先して科目を構成した生徒に、基礎学力の定着が難しくなる事例が見られる。 ・ 非開講講座の増加 教育課程表にある授業であっても、生徒の選択人数不足や教員定数の制約により、実際には開講できない「非開講講座」が存在している。 ・ 総合学科としての魅力 社会情勢の変化に伴い、生徒や保護者のニーズも開校当初から大きく変わってきている。 ・ 中高一貫教育における指導体制の状況 中学校から入学した生徒（中入生）に対して、高校進学後を含めた「6 年間」の連続性を持った指導体制やカリキュラムの構築を進めている。
イ キャリア教育について		
【要約】 1 年次の「産業社会と人間」に加え、24年度から 2 年次の課題探究を導入し系統性を改善しました。 意欲向上等の成果を踏まえ、今後は自ら調べ発表する等の活動を通じ、主体的な進路選択を促す教育の推進が課題です。		【現状】 ・ 中高一貫教育における探究活動の深化状況 中高一貫の強みを活かした「翼プロジェクト（探究）」を実施している。さらにより深い探究活動を実施するため理系分野の強化や科学的視点からの取り組みを進めている。 ・ 外部連携と情報発信におけるリソースの制約 外部の人材、地域、高等教育機関との連携に努めており、活動成果の効果的な情報発信の方法について、最適な体制構築を図っている。 ・ 進路実現との運動性 探究活動が、生徒一人ひとりの具体的な進路実現や大学進学への成果へと十分に結びつくよう、指導方法の精査が行われている。
ウ 生徒の進路について		
【要約】 市立長野は約9割が上級学校へ進学し、大学・短大進学者が多いのが特徴です。国公立は推薦・A0入試が中心ですが、今後は進学希望の増加に対応した指導の充実と、希望実現に向けたさらなる工夫が課題となります。		【現状】 ・ 進学希望の動向と高い年内合格率 生徒の約 9 割（うち 7 割が四年制大学）が上級学校への進学を希望しており、難関大学や国公立大学の進学者数も増加傾向にある。また、推薦入試や総合型選抜の活用により、年内に約 7 割の生徒が四年制大学への進路を決定しているという特徴がある。 ・ 総合型選抜における探究活動の活用状況 入試制度の多様化に対応し、これまでの「翼プロジェクト（探究活動）」などの成果を総合型選抜をはじめとする入試に効果的に紐付けるための、具体的な指導方法の精査・研究が行われている。
エ 系列と科目選択について		
【要約】 進路希望に応じ選択科目を 8 系列へ拡充し、自由な選択を可能にしました。今後は丁寧な履修面談を通じ、生徒の実情に即した科目選択支援を充実させ個々の進路実現を強力に後押ししていくことが課題です。		【現状】 【高校】 ・ 多様な科目選択制度の運用 生徒の進路希望に応じ、選択科目群を 8 系列から柔軟に選択できるシステムを運用している。2・3 年次には、各自が進路や興味・関心を追求できる時間割を組むことが可能であり、50科目の学校設定科目を展開している。 ・ 進学ニーズに合わせたコース設計の検討状況 難関大学進学を目指す生徒の層に特化した、新たなコース設置に向けた具体的なカリキュラムの検討を行っている。 【中学】 ・ 「翼プロジェクト」とコース別学習の実践 中学段階では、探究基礎（35時間）・探究英語（35時間）に総合的な学習の時間（35時間）を合わせた「翼プロジェクト」を実施している。また、高校教諭と連携し、数学科（週 3 コマ）や中学 3 年の英語科（期間限定）において、習熟度に応じたコース別学習（基礎、通常、発展）を導入している。 ・ 放課後補習における外部連携の状況 生徒の確かな学力定着に向け、民間企業等と連携した放課後補習体制の構築に向け検討を進めている。
(2) 基礎学力の定着について		
【要約】 合宿や土曜補習に加えドリル等で学習習慣の定着を図っています。基礎知識と探究学習の両立が不可欠であり、その実現には小中高一貫カリキュラム開発や教員研修の充実といった、市全体での取り組みが重要な課題です。		【現状】 ・ 与えられた学習ではなく、生徒一人ひとりの習熟度に合わせた学習 生徒が自ら考えて行動する時間の確保や働き方改革などで学習合宿や土曜補習、中高一貫となるカリキュラム（先取り）は、現在実施していない。 生徒に家庭学習習慣を身に付けるための副教材等の選定に努めている。 ICTを活用した個別最適な学びを実践するため、スタディサプリ（学習動画）等を活用。

(3) 高大連携について		
	【要約】 信州大等との出前授業や大学授業への参加はキャリア教育として有意義です。今後は実施内容や時期を精査し、県内の大学・短大との有益な連携方策を検討しながら、事業を一層充実発展させることが今後の課題です。	【現状】 ・ 高大連携による学習意識の向上 長野市の包括連携協定や個別の協定により高等教育機関と連携し、進路や探究活動等を実践。（課題探究発表会等で毎年20名ほどの外部講師を依頼（大学、企業等）、令和6年度から、国のDXハイスクール事業に採択され、理数分野の充実をはかり信大工学部、教育学部、長野高専と連携している。
(4) 国際交流について		
	【要約】 現在は英国のサウスウォールズ校と短期研修を実施し、参加生徒は高い成果を上げています。国際交流は同校の特色であるため、今後は交流内容の検討や長期留学の継続的实施を通じ、生徒の国際的視野を広げることが重要な課題です。	【現状】 ・ 国際的視野を広める取組 中学での英語教育、高校でのクリアウォーター市からの高校生訪問、クリアウォーター市への短期海外派遣は市立の特色の一つとして機能している。 信州つばさプロジェクト（県教委主催海外研修）に参加する生徒もいる。 興味を持って参加する生徒は一定数いるが、多くはない。
(5) 地域との交流について		
	【要約】 市民参加型授業やボランティアで「地域と歩む学校」を推進中です。多世代交流は生徒の「生きる力」育成に有効です。今後は双方向の交流を深め、地域と学校が共に成長できる環境を整えることが課題です。	【現状】 ・ 中学、高校共にボランティア活動や探究で連携。 三才駅前会館を活用し、NP0法人と連携した「学生の居場所」を設立。探究課題の一つとして取り組む高2生を軸に、継承して活動している。
(6) 部活動について		
	【要約】 運動・文化部共に高い成果を上げ、地域連携も進んでいます。部活動は生徒の主体性育成や志望動機として重要です。今後は学習との両立を基本に、特色ある活動を継続し学校を活性化させることが課題です。	【現状】 ・ 部活動の成果と今後の展望 現時点で指定強化部を中心に活動は一定の実績を維持している。指定強化部以外でも運動部、文化部も活躍。運動部11、文化部15団体が活動している。（令和7年度現在） 部活動の数に対しての顧問の人数が少ない。 今後、運動部の更なる強化のために、施設の整備や安定した指導者確保等について検討している。 高校無償化の影響で私立高校への流出がある。
(7) 生徒指導について		
	【要約】 校訓を基に生活習慣の定着を図り成果を上げています。相談員の常駐も有効です。今後は心の問題の早期発見と対応に向け、担任や相談員等の連携体制を構築することが課題です。	【現状】 ・ 担任や相談員で対応しきれない事例の増加 本校常駐相談員だけでなく、稲荷山支援学校の高校巡回担当教諭の訪問やスクールソーシャルワーカーに依る生徒相談実施している。 日常的には本校常駐相談員が対応。特別な対応や支援の検討が必要な場合は稲荷山支援学校の高校巡回担当教諭やSSWと連携して対応している。 中入生の不登校生が増加傾向にあり、専門的な立場で助言できる関係者との連携が十分でない。
(8) 生徒募集について		
	【要約】 積極的な募集活動と多様な学びが評価され多くの志願者を集めてきました。 今後は少子化等を見据え、魅力向上と市立中学校との連携強化を図り、生徒募集を推進することが重要な課題です。	【現状】 ・ 部活動、探究学習など学校の取組は現時点で評価されている。 本校参与が市内中学にとどまらず、県下の中学校に訪問して、生徒募集に取りくんでおり、現時点で本校は一定の評価は得ている。 中学、高校前期選抜では一定の倍率を維持しているが、高校後期選抜では令和2年度と令和4年度の2回が定員割れをした。 【中学校入学者選抜志願者数倍率】 過去5年平均 1.76倍 【高等学校入学者選抜志願者数倍率】 前期過去5年平均 1.74倍 後期過去5年平均 1.11倍 今後10年で中学入学予定者数が旧第3通学区では595人減の見込み、高校入学予定者数が北信地区1,359人減の見込み。旧第3通学区では743人減と推移されている。県では毎年定数を見直し、高校再編整備も進めている。
(9) 市内施設利用と学校開放、地域の人材活用について		
	【要約】 市内の施設や専門人材を授業や部活動に活用し、施設開放も成果を上げています。今後は地域資源をさらに活かした「地域に根ざした学校づくり」を推進し、市立高校としての魅力ある特色を出すことが課題です。	【現状】 ・ 地域に根ざした学校づくり。 開放講座「ながのろじー」「書芸実践」の講座を4月から12月の期間で地域住民向けに教育施設や専門知識を開放する生涯学習講座を実施している。 今年度から市民協働サポートセンターと連携して探究支援（大学生によるメンター、高校生ワークショップ）を行っている。 ハローワーク長野によるキャリアガイダンスを行っている。 探究の支援に対しての予算措置がないので生徒からの徴収金で賄っている。